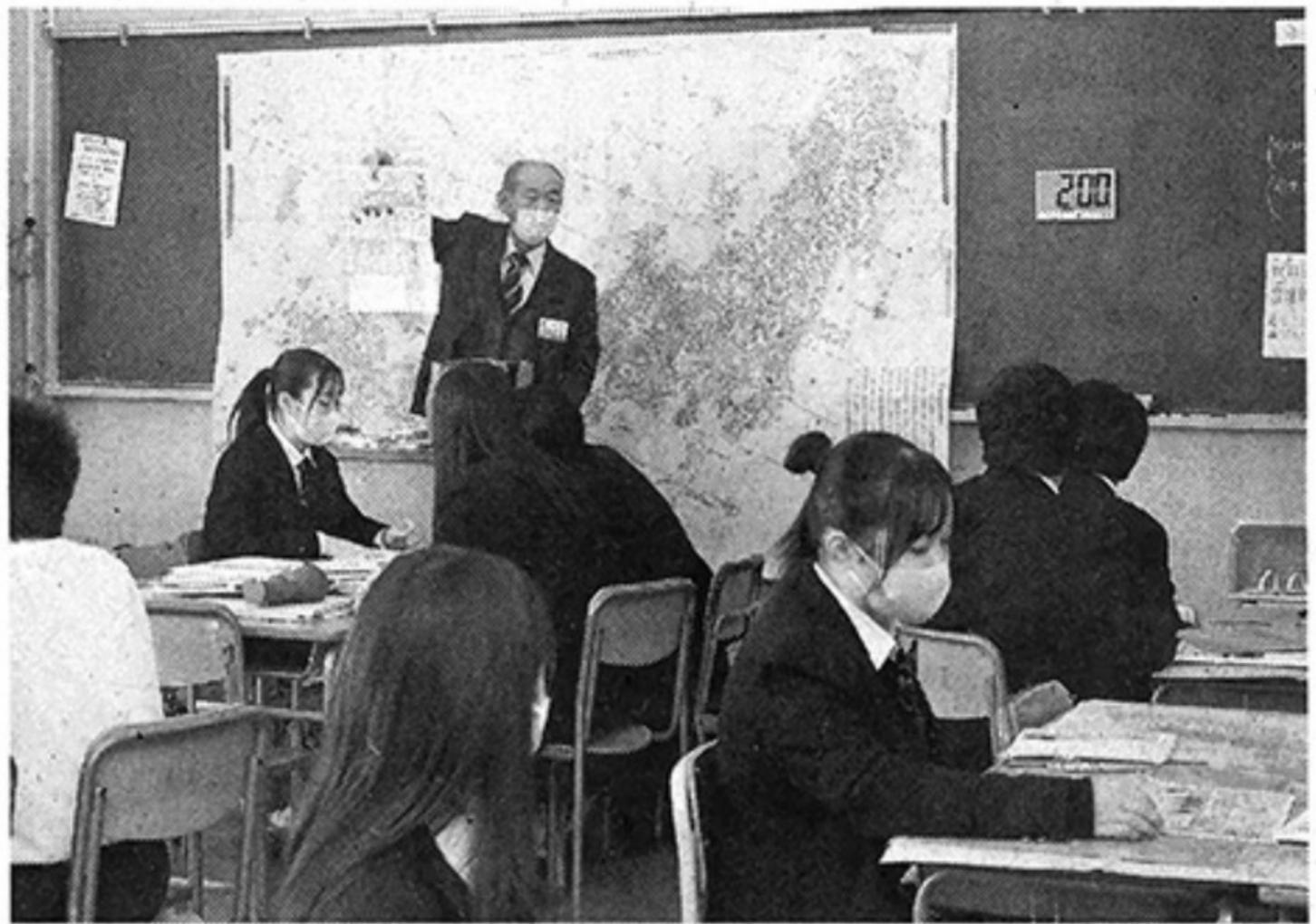


赤水図活用し地理学ふ

八千代高 顕彰会長が業績紹介



長久保赤水の業績を紹介する
佐川春久会長＝八千代町平塚

の業績を紹介した。

赤水図は1779年に初版が完成し、翌80年に発行された。この地図は江戸時代の庶民の間で広まり、長年使われたという。

地理Bの授業で生徒らは少人数のグループに分かれ、赤水図と現代の地図帳を比較。富士山や渡良瀬遊水地の位置のほか、利根川は「坂東大良川」と表記されていた相違点を学んだ。

授業の後半は佐川会長が登壇。赤水図の功績として「地図を庶民のものにした。物流など経済活動に使われた」と指摘。2020年9

月に赤水の関連資料693点が国の重要文化財に指定

されたと紹介した。

蘭部愛美さん(17)は普段はスマホの検索サイトで調べているといい、「地図を見る機会はない。短時間でもしっかり見るのができて良かった」と振り返った。今回授業を行った高柳元教諭が顕彰会員という縁で、佐川会長を招き実現した。

(小林久隆)

県立八千代高(八千代町

平塚、根本雄一校長)の3

年生28人は20日、高萩市出

身で江戸時代の学者、長久

保赤水(1717〜180

1年)が作成した「改正日

本輿地路程全図」(赤水

図)を使った授業に臨んだ。

長久保赤水顕彰会の佐川春

久会長(73)も登壇し、赤水